

中国西部経済と国内外経済とのリンケージ

任 雲

1. はじめに

中国西部地域と東部沿海地域との格差が大きい。2000 年以來、西部大開發戦略の実施により西部経済は以前より成長を加速しているものの、その格差は依然縮まっていない。小論は、近年の西部地域が中国の他の地域、そして国際経済とのリンケージを分析し、西部開發戦略を考えてみたい。

2. 国内経済とのリンケージ

(1) 資本のリンケージ

中央財政の対西部の支出は近年増大している。西部大開發以來5年間に中央財政から1兆元弱の資金、そのうち建設資金が4600億元で、交付税や特別項目補助金が5千億元以上を西部に投下された。特に財政建設資金とあわせ、開發銀行や国有商業銀行の融資で総額8500億元の資金は、インフラ建設や生態保全プロジェクト計60項目に投下された(國務院西部開發弁公室ウェブ)。

但し西部全体の固定資産の投資額は膨大で、2003年にすでに1兆800億元に達している。統計では2000-03年西部固定資産投資の中に、中央財政の投入が17.27%で、金融機関の貸出の25.66%より少ない。また、東・中・西部の中央財政建設資金の投入比率は、1999年の59.69:23.46:16.85から、2001年の57.02:24.84:

18.14に変わったが、対西部の比重は大幅に増えていない(『中国西部地区開發年鑑』2000-2002年、劉通『我国西部開發資金渠道的現状与局限』2005、中国經濟信息网)。そして2004年から中央は財政政策を轉換し、国債の発行を抑制するようになっている。国家の財政支援は、西部大開發の引き金になるものの、その限界は明らかである。

他方、東部企業から西部への直接投資は、近年増えているものの、西部開發以來の5年間で、その投下した金額は3000億元にすぎない(西北大学編『2005年中国西部經濟發展報告』)。中央の「東部対西部の相對支援」方針に従い、東部の各省・市政府は東部企業の西部への進出を推し進めているものの、東部企業の対西部の投資は総じて活発とは言えない。

特に問題になっているのは、2000年前後から、民間資金の域外への流出が加速している。西部金融機関から東部企業への融資、預金の本社への上納等の形で、東部に流出した資金の規模は西部の貸出総額の1割ほどを占める(白涛『我国西部融資現状、融資体系建設研究』『金融論壇』2004年第2期)。また、株式市場への投資も西部資金漏れの原因である。総じて西部の資金の流出は東部からの流入より多い。これは、西部経済に与えた分極効果であると言えよう。

(2) 産業のリンケージ

日置史郎(「中国の地域格差と沿海地域から内陸地域への浸透効果」『比較経済体制学会年報』Vol.41.1,2004)によれば、2000年最終需要誘発生産額・産出乗数のいずれであれ、東部沿海地域から西部地域の波及効果は全体の波及効果の2-3%と総じて小さい。東部沿海地域からの波及部分が西南、西北地域の生産額に占める比率もおおよそ10%に止まる。長江デルタを中心とする中部沿海地域から中部地区へ、また珠江デルタを中心とする南部沿海地域から西南地域への波及効果は、萌芽的に形成されつつあるが、総じて沿海地域から西部への波及効果は極めて脆弱である。

一方、沿海から中部(東北を除く)への波及効果が比較的大きく、全体の波及効果の9%を占める。中部地区(東北を除く)の生産額においても沿海地域からの誘発部分が占める割合は全部門平均で20%程度である。

西部と中部の関係については、西北の生産額において中部(東北を含む)全体からの誘発効果が8.4%で、西南の生産額も中部全体からの誘発額は5.6%で、西部地域と中部のリンケージは沿海とのリンケージよりさらに脆弱である。

そして西北と西南の間に、相互誘発効果も非常に弱い。西南の生産額において西北の誘発部分は3.3%で、西北の生産額に西南の誘発効果は1.9%である。

向山英彦(「中国の地域間格差と産業間の地域間リンケージ」『環太平洋ビジネス情報 RIM』Vol.5, No.17, 2005,)も、日置と同じ産業連関表を用いて、沿海が西部への波及効果が非常に小さい、ただし機械産業、電子産業に関して西北は中部、西

南は南部沿海の波及効果のある程度受けている、と明らかにした。

総じて、西部地域の産業は、東部、中部地域とのリンケージが非常に弱い。また西北と西南の産業連関も弱い。

(3) 労働力の移動

西部地域では、西南と西北の労働力移動の状況が異なる。西南は労働力流出で、とくに四川省(純流出口214万、1999年、以下同)、重慶市(115万)、広西(130万)、貴州省(109万)は労働力の輸出基地である。一方西北では、陝西、甘肅省、内モンゴルから多少の労働力が流出しているが、他の省は純流入省である(丸川知雄『シリーズ現代中国経済 3 労働市場の地殻変動』、2004、p.55)。

無論、西部も中部と同じ、労働力の80%以上の移動は東部へ、特に珠江デルタ、長江デルタ、環渤海地帯へ集中している。しかし西部の労働力の移動は中部の移動よりかなり少ない。1990年代末東・中・西三大地域間労働力移動の比率から見れば、西部から東部への移動は4.66%で、逆の移動は1.06%、中部から東部への移動は9.53%で、逆は1.99%、西部から中部への移動は1.35%で、逆は1.44%である(上海財経大学編『2003 中国区域経済発展報告』p.221)。

以上のデータを見る限り、中部地方より西部地方の労働力の移動規模は小さい。西部の労働力の移動、特に西北の移動は活発ではないと言える。労働力の流出によって原地域に与えるメリット、例えば送金などの所得移転効果、直接投資効果がある。その意味では西北の労働力の非流動性は西北経済の阻害要因であると言える。しかし優秀な人材の流出等のデメリット

もあり、人材の流失は西部経済の成長を阻害する分極効果をもたらしている。

3. 国際経済とのリンケージ

(1) 直接投資

1983-2002年に、東部地域は中国に入った外資の87.84%を吸収した。とくに珠江デルタ、長江デルタ、環渤海地帯は総量の7割を吸収した。しかも、三地帯の外資投資比率は年々高まっている。1993年三地帯の外資直接投資及びその他の外資投資は全国の71.03%を占めたことに対して、2002年その比重は78.84%に達した。一方、20年間に、中部は外資の9.09%、西部はわずか3.07%しか吸収できなかった(魏後凱、「外資与区域経済」、中国经济信息网、2005)。

なお、2004年に西部地域に新設された外資系企業は前年比10%増の1915社で、その投資額も年間20億ドルにのびたが、当年度の海外対中直接投資総額606億ドルの3%弱しかない(新华社2005年11月18日)。

このように、西部における外国の直接投資は極めて少ない。直接投資のほかに、海外からの直接援助や世銀やアジア開発銀行の貸出はあるが、その量も西部にとって微々たるものである。

(2) 国際貿易のリンケージ

西部地域と海外との貿易額は近年比較的伸びているものの、全国の中に占める割合は依然として非常に少ない。表1のように、2004年西部12の省・市・自治区の輸出額は210億ドルで、輸入を合わせても合計は300億前後で、全国貿易総額の11,547億ドルの3%にも達していない(国家统计局ウェブによる)。ちなみに東部

の両大外資系企業の集積地、蘇州と東莞の2004年の貿易総額がそれぞれ1032.01億ドル(輸出507.74億ドル)、645.18億ドル(輸出351.92億ドル)であった(両地方政府統計局公報により算出)。

もう一つの問題として、西部と東部及び全国の対外貿易の格差は近年一層拡大している。西部の対外貿易総額、輸入額、輸出額の対東部の比率は、2000年のそれぞれの3.93%、3.45%、4.38%から、2004年の3.43%、3.09%、3.77%に低下してきた。また、2000年西部の貿易依存度は9%で、国全体より31ポイント低いのが、2003年になって、その貿易依存度は10%と微増し、国全体との差が42ポイントまで拡大した(前掲、西北大学編)。

表1 2004年西部の貿易(輸出額)

省・市・区	貿易総額	前年同期比
重慶	20.91億ドル	31.90%
四川	39.84億ドル	24.19%
貴州	8.67億ドル	47.40%
雲南	22.40億ドル	33.60%
チベット	1.30億ドル	6.90%
陝西	23.97億ドル	38.10%
甘肅	9.96億ドル	13.58%
青海	4.55億ドル	66.00%
寧夏	6.46億ドル	26.30%
新疆	30.47億ドル	19.90%
内モンゴル	16.82億ドル	17.36%
広西	23.96億ドル	1.60%

出所：中国網 <http://www.china.com.cn>「西部大開発5周年」特集

貿易構造では、2004年の輸出では、西部地域の一般貿易、加工貿易と他の貿易の占める比率がそれぞれ68.1%、16.4%、

15.5%であることに対して、東部地域の比率は38.4%、58.6%、3.0%である。西部地域はやはり東部と異なり、一次製品の輸出が中心である(前掲、西北大学編)。

総じて、西部の国際貿易リンクージは、東部と比べられないほど弱い。しかも西部と東部の開きは近年むしろ拡大している。

4. 西部開発戦略について

小論が分析されたように、西部経済と国内・国際とのリンクージはまだ非常に弱い。これは、西部経済の発展が遅れた結果であると同時に、西部経済発展の阻害要因にもなる。換言すれば、域外経済とのリンクージの弱さは経済発展の遅れと循環的因果関係にあると言えよう。

東部沿海地域との地域格差を縮小するには、西部は中部・東部とのリンクージ、さらに国際経済とのリンクージを強化しなければならない。そのために、西部の一層の開放が必要であり、ソフトとハード面の環境改善が求められる。しかし本稿からみれば、現状では、資金の面でも、産業連関と貿易の状態からみても、西部と外部とのリ

ンクージを強化するのになお相当な時間を要するであろう。

そのために、沿海地域からの産業波及効果や資金の投入、あるいは外資の進出に期待するだけでなく、西部地域に新たな産業成長拠点を重点的に開発する必要があり、特に地域内産業集積地の育成が重要な課題である。また、域内の金融システムを整備し、より多くの資金を集め、効率的に配分することも喫緊な課題である。そして西部特に西北部から域外への労働力の移転を一層加速させると同時に、教育の質の向上や人的資源の開発にもっと力を入れるべきである。

一言で言えば、西部開発においては、外部とのリンクージを強化すると同時に、自律的・内発的な開発・成長戦略を確立しなければならない。

記：小論は、文部科学省科学研究費(B)(16402013)『市場システム形成下での中国西部地区経済の国内・国際的リンクージに関する調査研究』(代表：座間紘一)の初期研究の一部である。